聞こえなくなる前に、

蝶乃　みなと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
聞こえなくなる前に、

【Ｎコード】
Ｎ９５３１Ｚ

【作者名】
蝶乃　みなと

【あらすじ】
―いつだって動物は私たちに喋りかけていたのに、気づかなかったのは私たちの方だった―動物の声が聞こえるこゆきと、その動物たちの物語。

ハムスターとヨータと（前書き）

初めまして、蝶乃かえでです（´・ω・、）＊
長編の小説としては二作目の作品となります。
おかしなところもあると思いますが暖かい目で見てやってください。
最後まで付き合って下さると嬉しいです。
意見・アドバイス等大歓迎です。

ハムスターとヨータと

私が小学校の中学年の頃には動物の声が聞けていた。
たとえば、学校で飼育していたウサギだとか、イヌだとか
クラスで飼育していたハムスターだとか、動物と話せる能力
みたいなものがあった。

その力に目覚めたのは小学三年生の春ごろで
クラスで飼育委員になったのがきっかけだと思う。

クラスで飼っていたジャンガリアンハムスターのハムちゃん
（いま思えば小さい子が名付けたから安直な名前だ）に放課
後残って
エサをあげたりだとか水を交換したりだとかしてるときに
ハムちゃんが私の手に寄って、
「もっといいゴハン食べたいな」と言われたのが始まりだと
思っている。
私がその声の主がハムちゃんだと理解するにはかなりの時間
がかかったけど
（私はどちらかというとサンタとかそういうものも信じない
性質（タチ）だったし
動物と人間が喋れないことも知っていた、つまり他の人た
ちより、ませていた）
ハムちゃんと話せることが分かると、そうだ、他の動物とも
話せるんじゃないの、と
ハムちゃんの水を取り替え終えたら
学校の裏庭で飼っている柴犬のヨータに会いにピカピカの赤

いランドセルを背負い
走って行って大声でヨータ、と叫ぶと「ミホちゃん」という声が聞こえた。
ヨータは上級生（六年生）の女の人が名付けたくれたと聞いた。
ヨータはすごく明るくて、でもうるさくない、鳴かないから。
私はヨータに向かって、オハヨー、と叫ぶとヨータは首を少し傾げて
「きみはだれだろう」と言った。
あまつ　こゆき、と叫ぶとヨータは「こゆきちゃんて言うんだね」と尻尾をふる。

「いつもこの時間に来るのは飼育委員のミホちゃんだから、ミホちゃんが
来たのかと思ったよ」
ミホちゃんて誰のことなの、と聞くと
「ミホちゃんは上級生ですごく優しい子なんだよ。ごはんもくれるし
僕と遊んでくれるから好きなんだ」と答えた直後、後ろから声がした。

「あれ、知らない子がいる」
後ろを向くと優しそうな女の人がいた。この人がミホちゃんなのかな。
「あ、わたし、飼育委員長の高橋（たかはし）ミホ。
この時間はいつもヨータのお世話してるの。
あなたは名前なんていうの」
あまつ　こゆきです、と言うとミホちゃんは微笑んで言っ

た。

「こゆきちゃんね、こんな時間にヨータに会いに来る子、少ないの。

ヨータは誰かが来ると嬉しがるんだよ、誰かと遊んでるのが大好きなんだよ」

ミホちゃんはヨータの頭をクシャクシャに撫でる。

ヨータは嬉しそうに鳴く、けど、あれ、喋らない。

「こゆきちゃんもヨータと仲よくしてやってね」

ミホちゃんはそういうと水を汲みに行ってくるね、と

ヨータと書かれたバケツを持って水道のある校舎内に行ってしまった。

ヨータ、と叫ぶと「こゆきちゃん」と返ってくる。

さっきまでなんで喋らなかったの、と聞くとヨータは

「僕はずっと喋っているよ、でも気づかない人がほとんど。

こゆきちゃんは珍しい、うんと珍しい。

動物と人間は喋れないはずなのにこゆきちゃんはどうして

僕と喋れるの」と言ったので、

それが私にもわからないの、と言うとヨータは首を傾げて「へえ」と言った。

しばらくするとミホちゃんが戻ってきたので

帰ります、とミホちゃんに言って帰ろうとすると後ろから

ミホちゃんが、またきてね、と言って手を振ってくれたので

私はすこし恥ずかしい気持ちで手を振りかえして走って帰った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9531z/

聞こえなくなる前に、

2011年12月29日20時52分発行